

(6) 調査結果

市民からは、調査対象の生き物情報が、77 件の情報が寄せられた。その他に調査対象外の 16 件の生物情報も寄せられた。これに平成 30 年度いきいき協働事業「小平らしい生き物の調査事業」、平成 30 年度および令和元年度の「用水路内生物分類等業務委託」、市民団体からのヒアリング情報など、40 件の情報を加え、合計 133 件について、地理情報システム（以下「GIS」と呼称）で記録した。以下に寄せられた情報を、調査対象種ごとに図 3～17 で示す。

○夏編

①アザミ類

確認種名：ノハラアザミ、アメリカオニアザミ、キツネアザミ

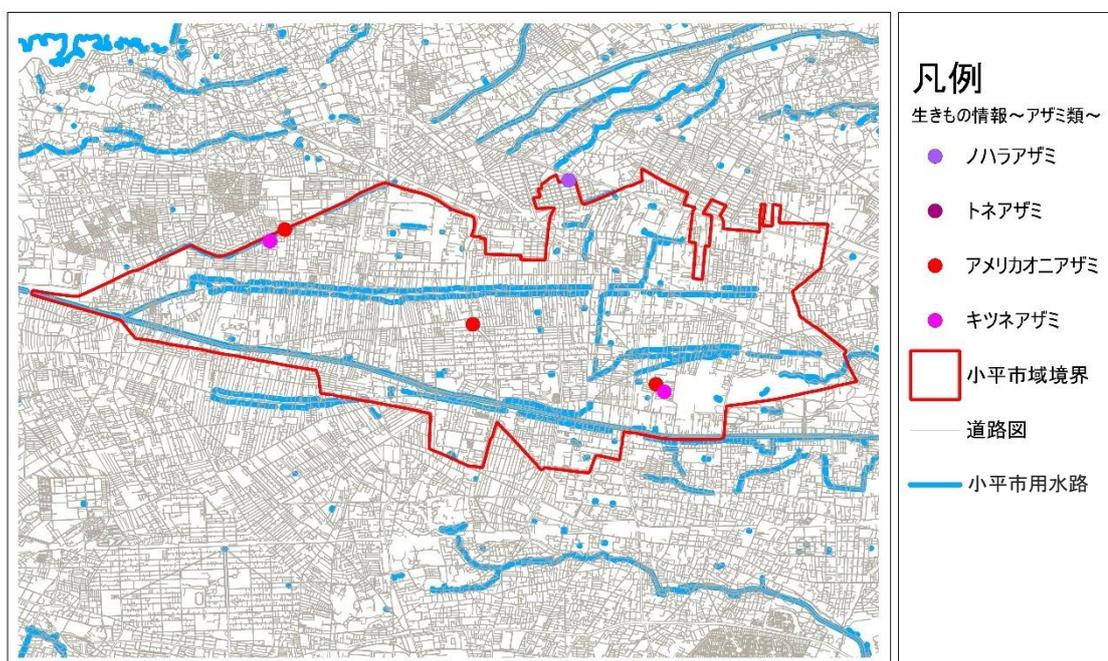


図 3. アザミ類の調査結果

収集した情報を図 3 に示す。小平霊園付近でノハラアザミ 1 件、外来種のアメリカオニアザミ 2 件の情報が寄せられた。また、平成 30 年度いきいき協働事業で、キツネアザミとアメリカオニアザミをそれぞれ 2 地点ずつ記録している。アメリカオニアザミは環境省により「その他総合対策外来種」に指定されている。非常に繁殖力が強く、在来の草本の生育場所を奪う、葉や茎にある鋭い刺で人が怪我をするなどの影響が出ている。小平市内では市役所付近の鉄道敷など、都市化の進んだ場所でも確認されており、今後の分布拡大に注意が必要である。

②カマキリ類

確認種名：オオカマキリ、コカマキリ、ハラビロカマキリ、チョウセンカマキリ

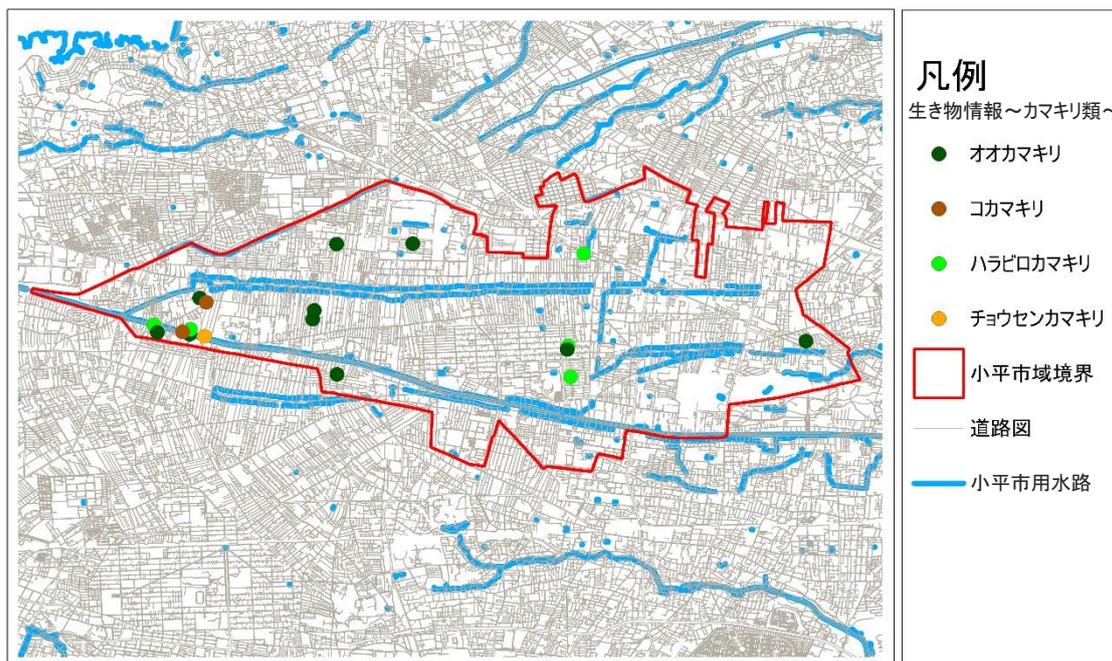


図 4. カマキリ類の調査結果

収集した情報を図 4 に示す。オオカマキリ 10 件、コカマキリ 2 件、ハラビロカマキリ 5 件、チョウセンカマキリ 1 件の情報が寄せられた。オオカマキリは小平市内全域から情報が寄せられ、小規模な公園や農地などでも生息できていることが示唆される。雑木林の林床でよくみられるコカマキリや、樹上で見られる機会の多いハラビロカマキリは、玉川上水など連続した樹林地周辺で見られ、緑道や用水を移動経路に利用していることが示唆された。

③ヤマユリ

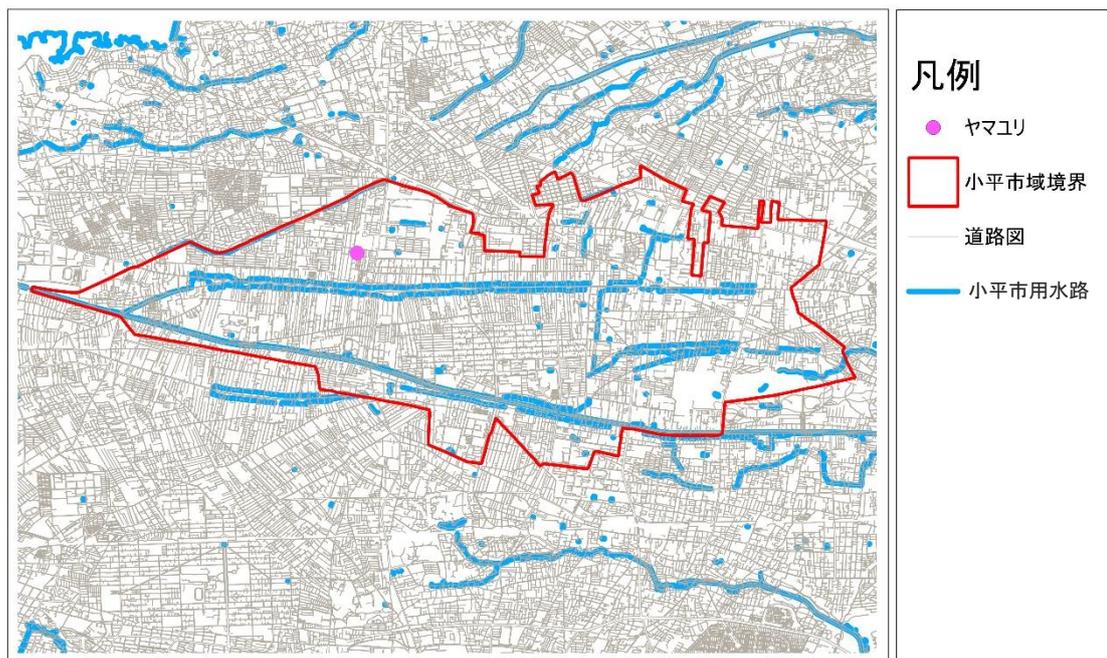


図 5. ヤマユリの調査結果

収集した情報を図 5 に示す。全部で 4 件の情報が寄せられたが、写真付きの情報は、すべて園芸種テッポウユリの誤同定であった。1 件は写真なしの報告であったが、近くにまとまった草地や雑木林がない市街地での確認であったため、これもテッポウユリの可能性が高い。正確な情報が 0 件であるため、「生き物マップ」には記載しない。引き続き情報収集が必要である。

④クワガタ類

確認種名：ノコギリクワガタ、スジクワガタ、コクワガタ

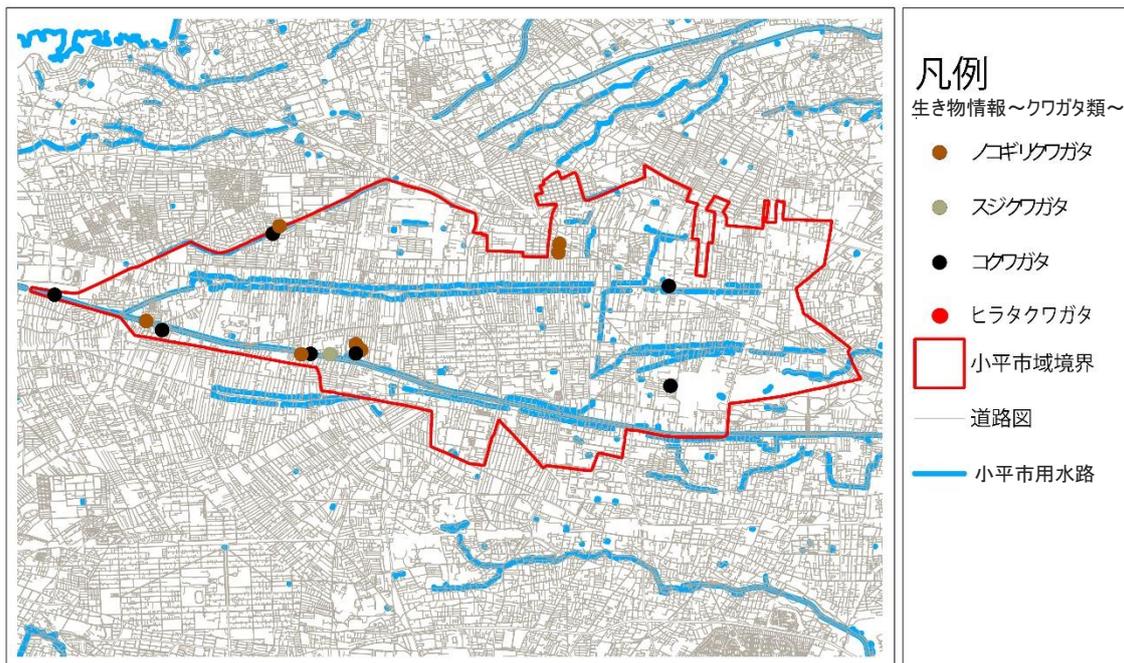


図 6. クワガタ類の調査結果

収集した情報を図 6 に示す。ノコギリクワガタ 6 件、スジクワガタ 1 件、コクワガタ 7 件の情報が寄せられた。スジクワガタは「レッドデータブック東京 2013」に記載されている準絶滅危惧種 (NT) である。いずれも玉川上水や野火止用水などの連続した緑地が残った環境で記録されており、生息にはある程度まとまった緑地が必要であると考えられる。

⑤コゲラ

小規模な雑木林や、市街地の街路樹などでも記録された。

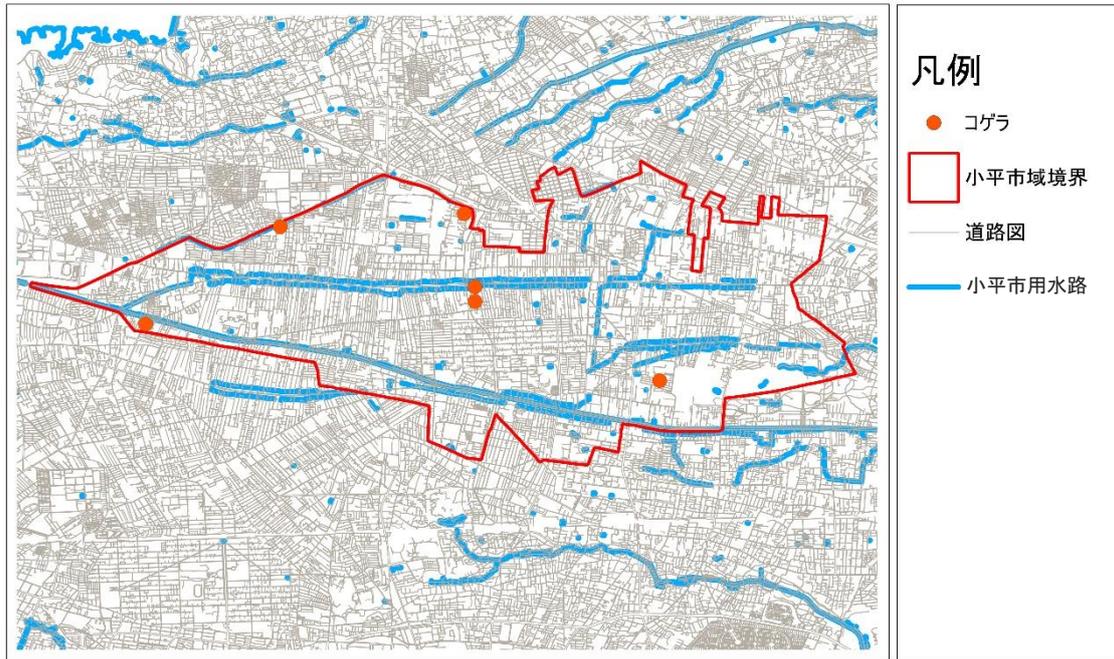


図 7. コゲラの調査結果

収集した情報を図 7 に示す。5 件の情報が寄せられた。規模の大きな樹林地でも記録があるが、都市化が激しい場所でも、わずかな街路樹や小さな公園などでも記録されている。比較的都市化に強い野鳥であることが示唆された。

⑥フクロウ類

確認種名：フクロウ、アオバズク

収集した情報は全部で2件であった。フクロウ類はいずれも「レッドデータブック東京2013」の掲載種である。生息情報を公開すると観察者が集中し、生息環境に影響を及ぼす恐れがあることから、「生き物マップ」には掲載しない。

また、本報告書についても公開になる可能性を考慮し、詳細は記載しない。

⑦カエル類

確認種名：アズマヒキガエル

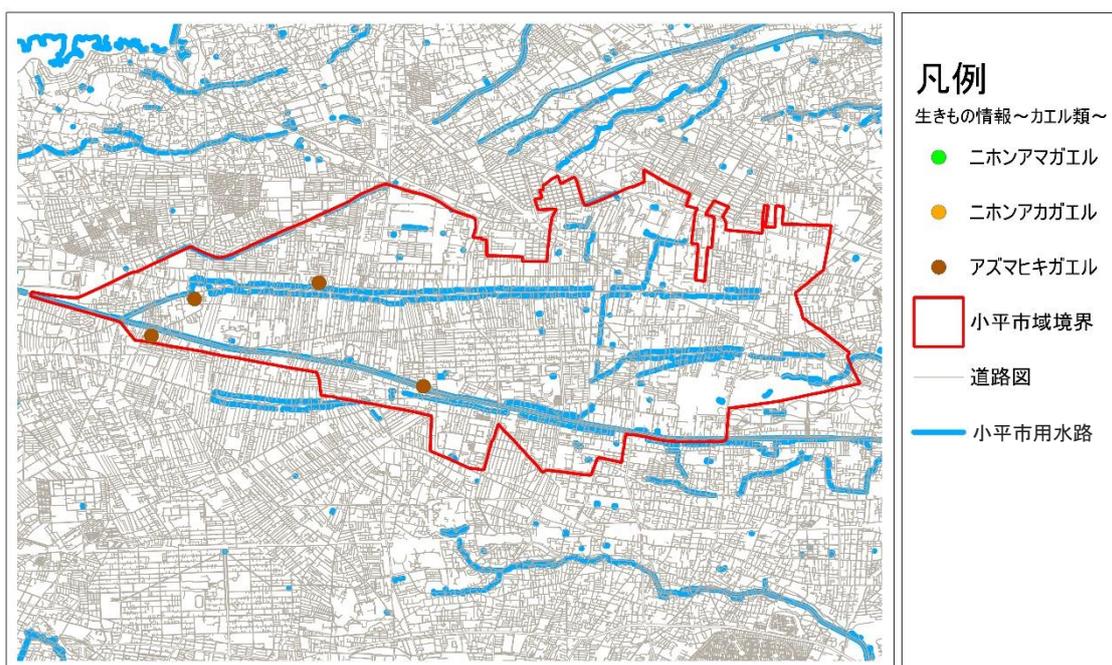


図8. カエル類の調査結果

収集した情報を図8に示す。4件の情報はすべてアズマヒキガエルで、市民参加型調査では、3件の情報が寄せられた。1件は「平成30年度小平市用水路内生物分類等業務」における記録である。玉川上水のほか、市内中央部を流れる小川用水でも確認されている。アズマヒキガエルは雑木林など陸地に生息し、産卵の時に水辺に集まってくる、水陸を歩き来する種類である。比較的細かい用水でも見つかったことから、規模は小さくとも陸の生息環境と合わさった水辺があれば、生息できることが示唆された。細かい用水が入り組んだ小平市内では、より広い範囲で本種が見つかる可能性が高い。

⑧サギ類

確認種名：コサギ、ダイサギ、アオサギ

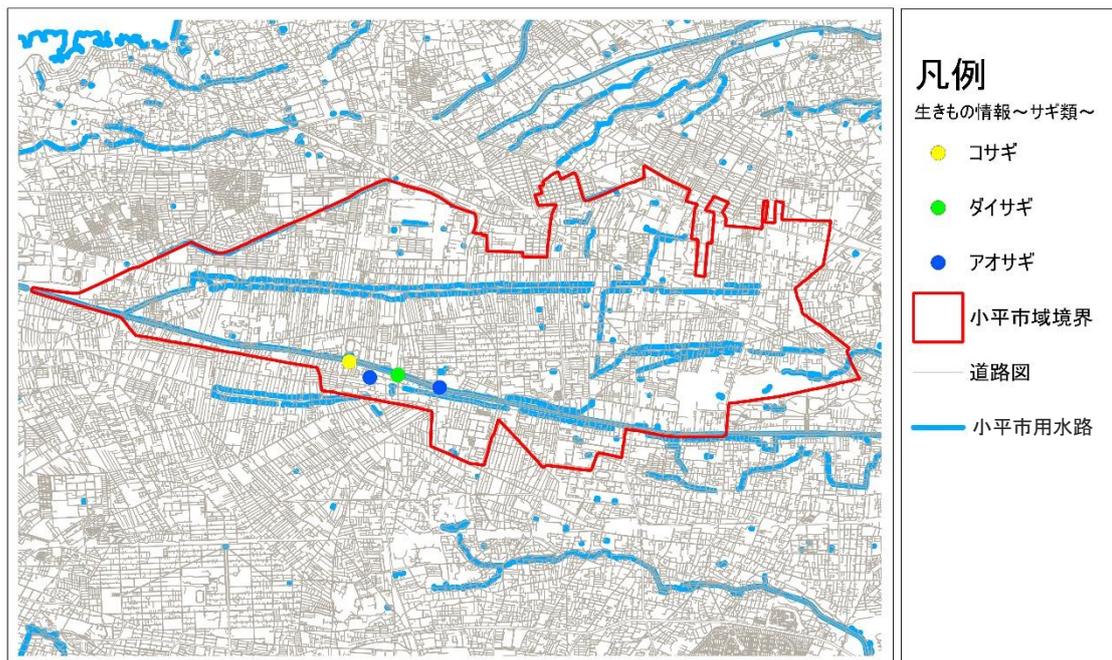


図 9. サギ類の調査結果

収集した情報を図 9 に示す。市民参加型調査では、3 件の情報が寄せられた。また、公開されている都立公園の情報により 2 件を記録した。合計 5 件でコサギ 1 件、ダイサギ 2 件、アオサギ 2 件である。コサギとダイサギはいずれも、「レッドデータブック東京 2013」に記載されている準絶滅危惧種 (NT) である。すべて玉川上水並びにその付近の水辺での情報だった。サギ類は比較的浅い水辺で水生生物を捕食しているが、エサとなる生物が多い場所を好み、規模の大きな玉川上水周辺に集まっていると考えられる。

○秋・冬編

①ススキ

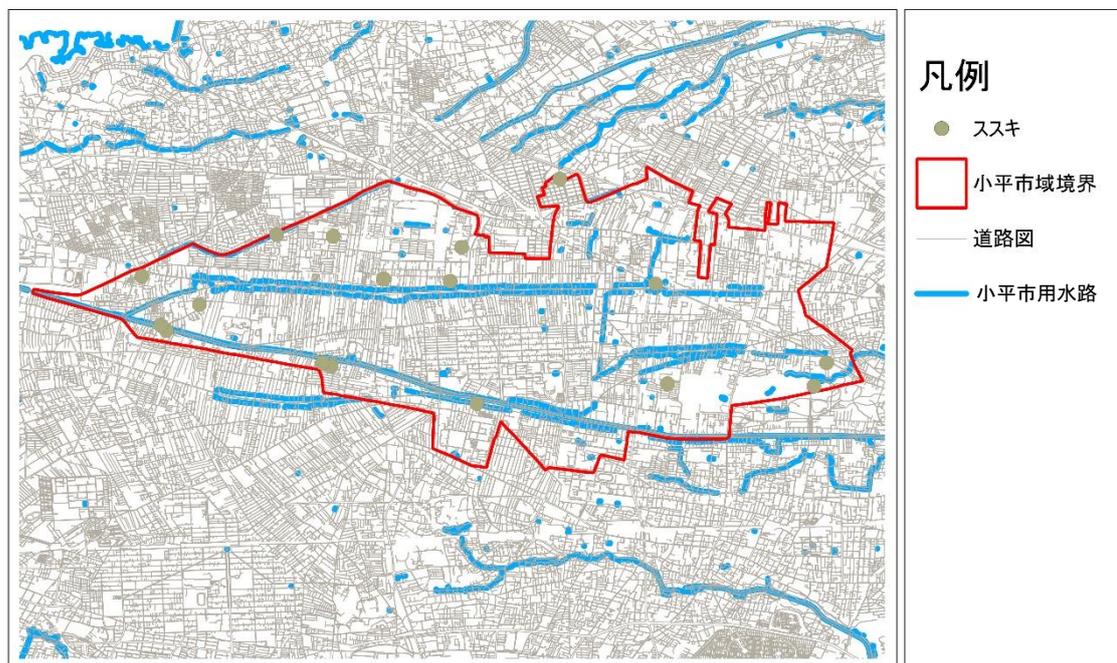


図 10. ススキの調査結果

収集した情報を図 10 に示す。15 件の情報が寄せられた。雑木林の林縁部で多く確認されたほか、小規模な農地や公園でも記録があった。草刈の頻度によっては小規模な緑地でも残ることができ、バッタ類などの貴重な生息環境になっている。なお、都立狭山・境緑道で 2 件の情報が寄せられたが、これらは園芸で用いられる南米原産のパンパスグラスであった。

②イナゴ類

確認種名：コバネイナゴ

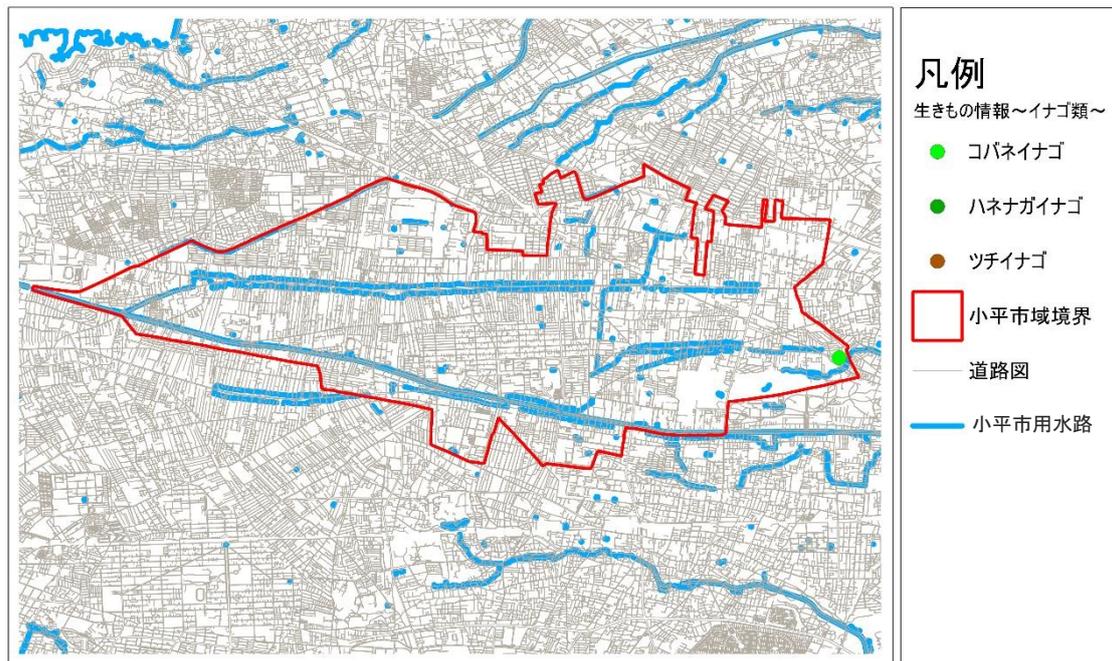


図 11. イナゴ類の調査結果

収集した情報を図 11 に示す。市民参加型調査で寄せられた情報は 2 件あったが、すべてがヒナバッタの誤同定であった。公開されている都立狭山・境緑道の調査記録による 1 件のみが間違いのない記録である。同地は「馬の背」と呼ばれ、かつて送水管を通すために土の土手が築かれた場所であり、現在は土手に良好な草地環境が維持されており、様々な山野草やバッタ類が見られる。イナゴ類の記録は、その質の高さを示唆している。

③ ホンドタヌキ

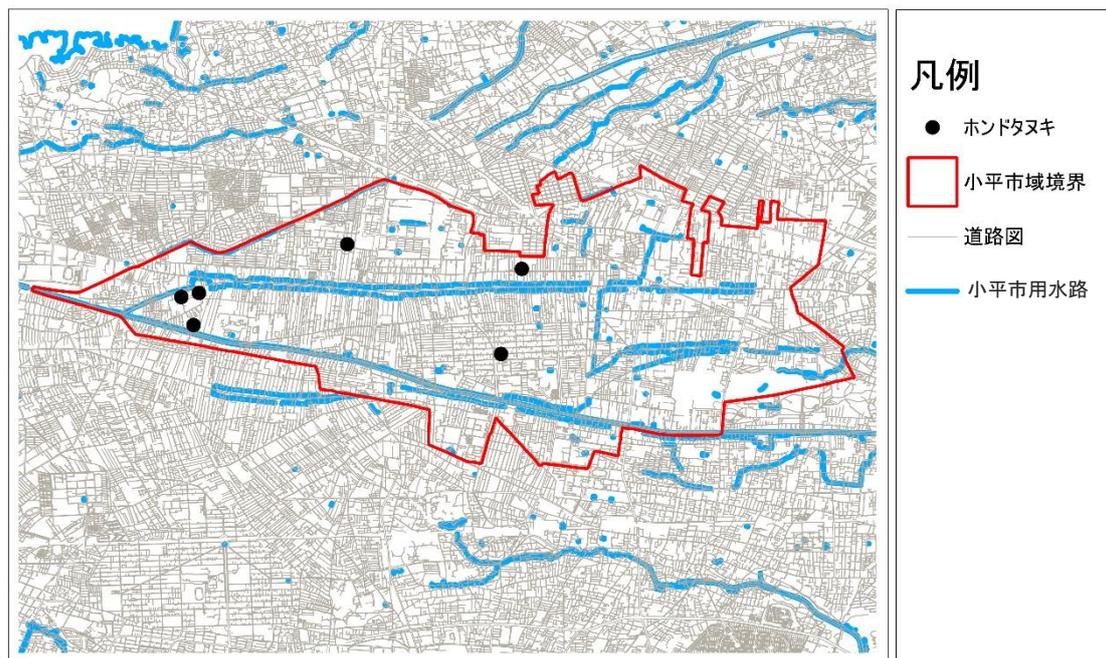


図 12. ホンドタヌキの調査結果

収集した情報を図 12 に示す。市民参加型調査で 6 件の情報が寄せられた。玉川上水や小川用水付近など、自然度の高い場所でも確認されているが、西武線一橋学園駅付近や、青梅街道付近など比較的市街化している地域での目撃情報もあり、都市化に強く農地や神社仏閣など小規模な緑地でも生息できる本種の特徴がよくでていた。ただし、交通事故による死亡個体の情報も 1 件寄せられており、動物の行動範囲と人間活動の影響の分析は、人と自然の共存を図るうえで、重要な課題の一つである。

④アライグマ

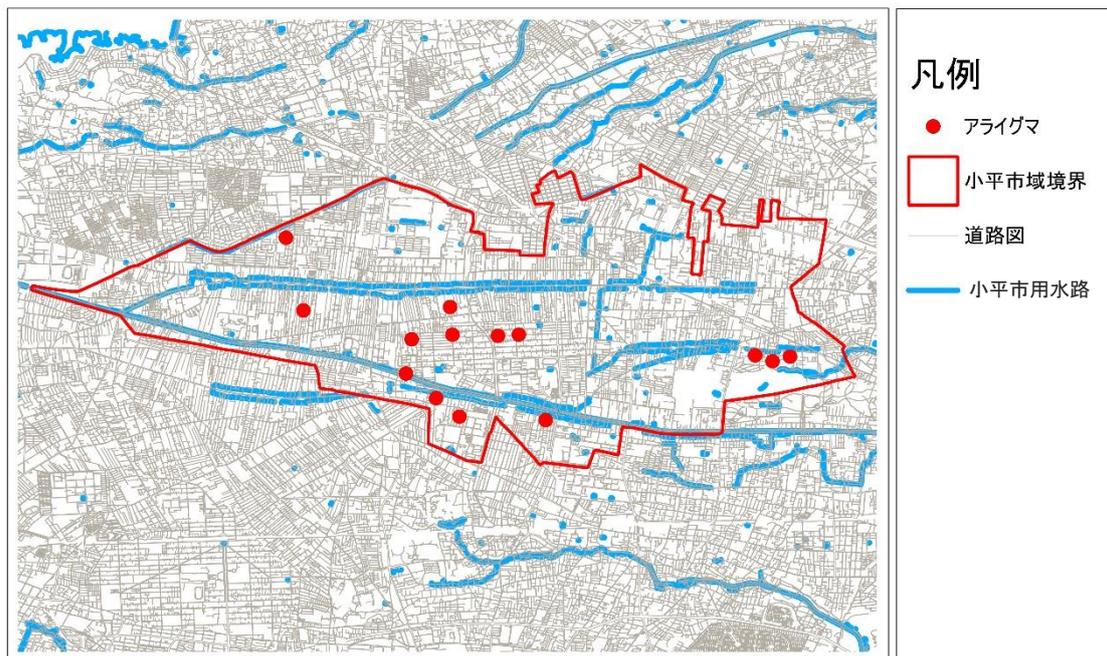


図 13. アライグマの調査結果

収集した情報を図 13 に示す。市民参加型調査では、玉川上水沿いにて 1 件の情報が寄せられた。その他の市民からの被害報告の 13 件の情報を加えた。玉川上水や小金井公園など規模の大きな緑地付近が目立ち、そこを拠点にしていると考えられるが、市役所付近など比較的都市化が進んだ市内中央部でも確認例が増えており、市街地にも進出しつつあると考えられる。人的被害や農業被害などを把握するうえでも、さらなる情報収集を続けていくべき種類である。

⑤ガビチョウ

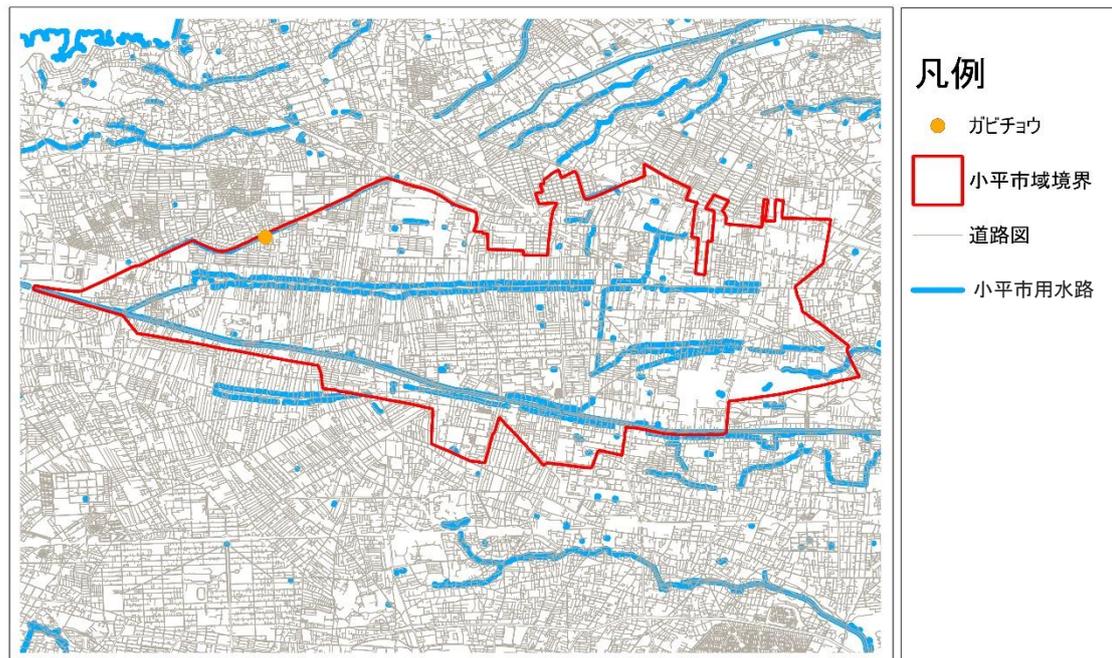


図 14. ガビチョウの調査結果

収集した情報を図 14 に示す。市民参加型調査における報告は 0 件であった。明確な情報は平成 30 年度いきいき協働事業における、野火止用水沿いの雑木林における 1 件のみの記録だった。本種は藪状に茂った場所を好み、管理が行き届かなくなり荒れ始めた雑木林などでよく目撃される。繁殖力が非常に高く、同じ環境を好むウグイスなどの在来種の住処を奪うことが懸念される。野火止の雑木林では、やや藪状になった辺縁部で確認されており、今後手入れが行き届かない雑木林が増えてくると、本種が増加する恐れがあり、引き続き調査を継続する必要がある。

⑥トカゲ類

確認種名：ニホンカナヘビ

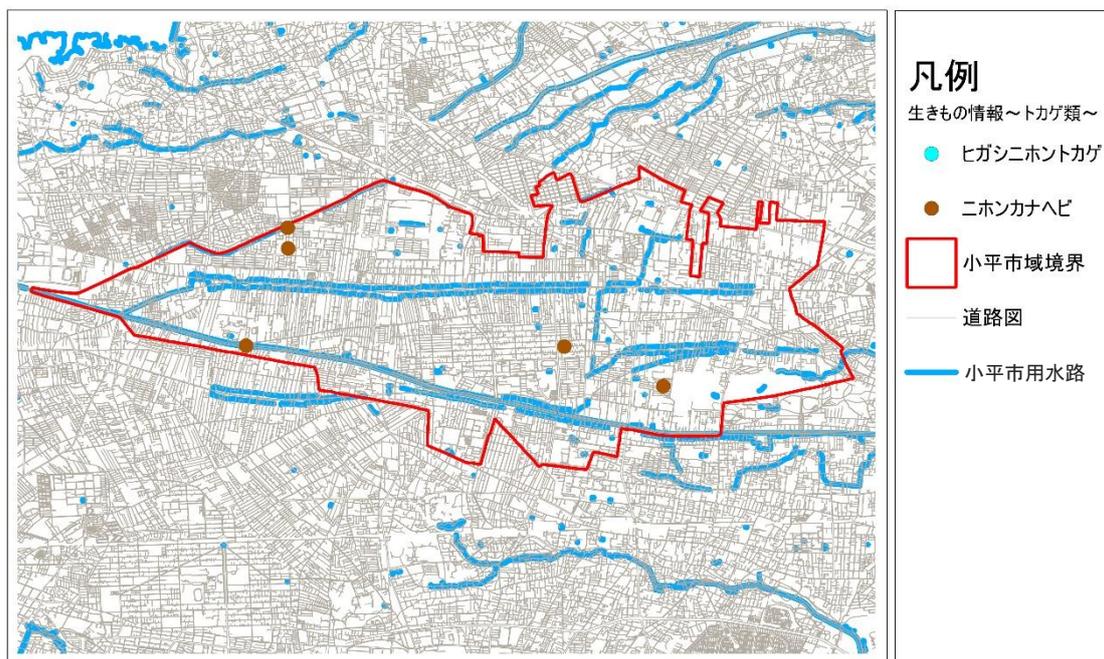


図 15. トカゲ類の調査結果

収集した情報を図 15 に示す。市民参加型調査で 3 件の情報が寄せられ、平成 30 年度いきいき協働事業で 2 件の記録があった。5 件すべてがニホンカナヘビであった。本種は「レッドデータブック東京 2013」に記載されている絶滅危惧 II 類 (VU) である。雑木林での確認のほか、小規模な農地や住宅の庭先でも確認されている。小規模な緑地でも生息は可能であるが、反面そういった場所は開発にさらされる可能性が高く、注意が必要である。

※⑦カエル類及び⑧サギ類については、夏編と秋・冬編で共通の調査対象種であるため、調査結果は、P12～13 を参照。

○その他報告

本事業の調査対象種ではないが、レポートとして寄せられた情報を以下に列記し、図 16 に示す。

- ・哺乳類：ハクビシン（ジャコウネコ科、重点対策外来種）1件
- ・鳥類：ツミ（タカ科、絶滅危惧 IA 類）1件
 ※ツミは「レッドデータブック東京 2013」の掲載種である。保全上の観点から、生息場所の情報公開を避けるため、本報告書の図 16 には記載しない。
- ・爬虫類：アオダイショウ（ナミヘビ科、準絶滅危惧種）1件
 ニホンヤモリ（ヤモリ科、留意種）3件
- ・昆虫類：カブトムシ（コガネムシ科）3件、カナブン（コガネムシ科）1件、
 アオカナブン（コガネムシ科）1件、
 ヨツボシケシキスイ（ケシキスイ科）1件、
 ミンミンゼミ（セミ科）1件、アブラゼミ（セミ科）1件、
 ベニスズメ（スズメガ科）1件、ヒナバッタ（バッタ科）2件、
 オンブバッタ（バッタ科）1件、ナナフシモドキ（ナナフシ科）1件
- ・植物：パンパスグラス（イネ科、園芸種）2件、テッポウユリ（ユリ科、園芸種）2件
 ヒメムカシヨモギ（キク科、外来種）1件

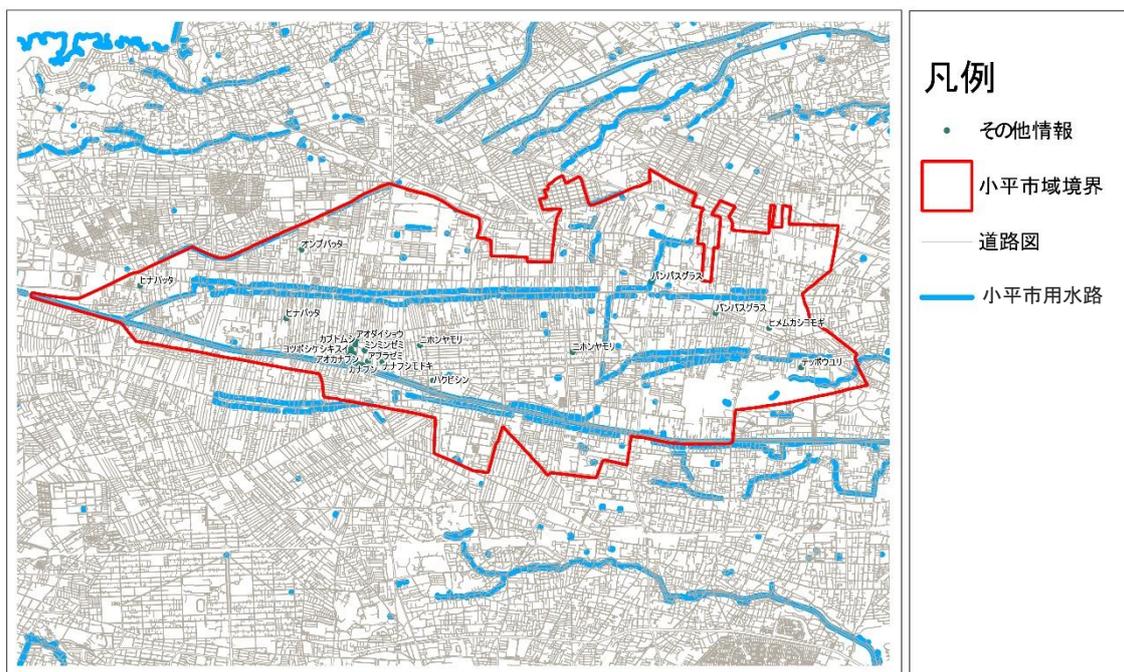


図 16. 調査対象外の種の情報

(7) 考察

水の乏しかった武蔵野台地では、玉川上水がひかれ、そこから網の目のように用水路が整備された。それに沿うように、宅地（屋敷林）・農地・雑木林がセットになった短冊状の新田開発が行われて発展してきたことが知られている。小平市には、当時の名残として用水網とその周辺に点在する農地・雑木林が今も見られる。都市化が進んだ現代において、点在して残る緑地は、規模が小さくとも、野生生物の貴重な生息環境となっている。ホンドリヌキやアズマヒキガエルの記録は、これを裏付けている。

また、水や緑が連続した玉川上水や野火止用水などは、市内では屈指の面積の自然環境であり、クワガタ類など多くの昆虫類の記録が寄せられた。同時にフクロウ類やサギ類などの記録が用水沿いに点在しており、鳥類や哺乳類をはじめとする動物の重要な移動経路になっていることが示唆された。それにより、周辺に点在する緑地や水辺にも、多くの生物が往来していると考えられる。今後、自然環境を保全し、生物多様性の向上を目指す際には、孤立した緑地の連続性を回復していくことが重要である。